

お知らせ



専門スタッフによる一人ひとりのお悩みに合わせた
個別相談・個別指導のこもれび



オンライン
相談
始めました！

お子さまの気になること相談してみませんか？

- ことば**
 - 言いづらい言葉や行がある
 - 緊張する場面で言葉がつかまってしまう
- 学び**
 - 文章を読んで理解することが苦手
 - 授業中にノートを書き写しきれない
- 生活**
 - 友達との関わりを深めることが苦手
 - 雑音や周囲のもの気になって集中が続かない など。

対象 幼児から高校生まで

場所 対面面談：愛媛大学教育学部内（附属学校園内含む）
オンライン面談：WEB会議アプリZOOMにて

費用 無料



お問い合わせ

愛媛大学教育学部 特別支援教育講座
苺田知則研究室内
相談ブース「こもれび」事務局
TEL：089-927-9517
Mail：karilab.soudan.booth@gmail.com



監修 苺田 知則
制作 国立大学法人愛媛大学
教育学部
発行 令和3年3月

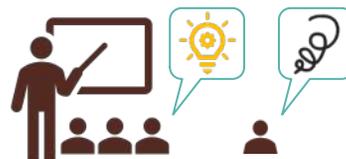
学校での生活や学習に困っている子どもたちとその周りの方々へ

多くの子どもたちにとって
わかりやすい授業・生活しやすい学校の
お手伝いをいたします。

「障害者の権利に関する条約」への批准、「障害者差別解消法」の施行に伴い、困難さのある子どもたちの学びの充実を図るための合理的配慮を、教育現場で円滑に提供することが求められています。通常の学級において、学級全体での工夫や個別に提供する合理的配慮、ユニバーサルデザインについてまとめました。

ユニバーサルデザインの工夫ってなあに？

・多くの子どもたちにとって有効な工夫



【基本的な考え方】
多くの人が使いやすい、わかりやすい

- (例)
- ・ 皆が学習しやすい教室環境が整っている
 - ・ 多様な学び方が選択できる



合理的配慮ってなあに？

・困っている個人のための工夫



【基本的な考え方】
障害のある子どもにとって不利な学びにならないよう、平等に学びの場を与える

- (例)
- ・ その子のできることで、できる方法で学ぶことができる
 - ・ 本来持っている力が発揮できる方法や環境で学ぶ



学びの
スタートライン

本リーフレットは、文部科学省から受託した「発達障害の可能性のある児童生徒の多様な特性に応じた合理的配慮研究事業」にて作成しております。

愛媛大学教育学部
特別支援教育講座
文部科学省受託事業HP



多くの子どもたちにとって **わかりやすい授業・生活しやすい学校** のお手伝いをいたします。



ユニバーサルデザイン

多くの子どもたちにとって
有効な工夫

合理的配慮

困っている
個人のための工夫

こもればの個別指導



専門家の個別指導で
個人の力を伸ばす

ことば

ぼ、ぼ、ぼ、ぼくね...



例えば、
緊張する場面で
言葉が詰まって
しまう。

- 話し方ではなく「話している内容」に耳を傾ける。
- 話すことだけの評価ではなく、話すこと以外の面も評価する。
- 音読を、先生やクラスメイトと一緒に読む。
- 発表の仕方を選ぶ（事前に録音、その場で発表等）ようにする。

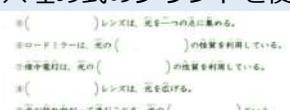
- 音読の際に「落ち着いて」「もう1回言ってごらん」等の助言はせずに、ゆったりとした雰囲気と接する。
- 行事の際の発表など、緊張が予想される際は、あらかじめ本人に伝えておく。
- ゆっくりと話しかける。

- ことばの先生と一緒に、吃音が出にくい方法を練習する。
- 吃音について、正しい知識を得る。
- 効果的な発話・コミュニケーションをする方法を学習する。

学び



例えば、
文字を書くのが
苦手で、授業中に
ノートを書き写し
きれない。

- 穴埋め式のプリントを使う。

- 板書は、色や量を精選する。
- 書く時間と聞く時間を分けて確保する。
- 様々な文房具を選択できるようにする。

- 自分が書きやすい文房具、補助具、ノート等を使う。
 補助具の一例
- 書く量を調整する。
- タブレットで写真を撮り、手で写す。
- タブレットで記録する。

- 声かけをする。

- 書くことの苦手さの背景を見つけ、その子にあった運筆練習をする。
- その子にあった書く方法 (ICT機器を含む) を見つけ、定着できるように練習する。
 

生活



例えば、
授業中の雑音
や周囲の物が
気になって、
集中できない。

- 気が散る刺激がすくない席を選ぶ。
- 見るとき、聞かるとき、話すときなどをはっきりと指示してもらおう。
- 黒板周辺の掲示物などは、必要最低限にする。

- ノイズキャンセリングイヤホンやイヤーマフを着用する。

- 刺激になる音（聴覚）刺激になる物（視覚）から離れる。
- しんどくなったら、別室で休息を取れるようにする。
- 声かけをする。

- 授業に集中できない背景を見つけ、その子にあった授業の受け方かどうか確認をする。
- 自分の困ったことを理解し、自分で周囲に発信できるよう学習する。